

厚生労働科学研究「医師臨床研修の到達目標とその評価の在り方に関する研究」 について

- 以下の厚生労働科学研究において、到達目標及び評価の在り方の見直しに向けた検討の基礎資料として、どのような医師を育成すべきかを踏まえつつ、人口動態や疾病構造の変化、医療提供体制の変化、診療能力の評価、項目の簡素化、評価の標準化、医師養成全体の動向等の観点から、関係データの収集・分析を行った。

平成26年度厚生労働科学研究「医師臨床研修の到達目標とその評価の在り方に関する研究」

研究代表者：福井次矢（聖路加国際病院 院長）

期間：平成26年4月1日～平成27年3月31日

- 研究及びその結果の概要については、以下のとおり。

1. 診療能力を踏まえた到達目標設定の在り方に関する研究（別添2）

- ・研修医の診療能力の実態や現在の目標の過不足および構成の問題点を把握するため、臨床研修指導医等に対するインタビュー調査、質問紙による調査を行い、診療能力を踏まえた診療目標に関して、具体的な在り方と適用の妥当性について、3.のプロフェッショナルリズムを踏まえた到達目標の在り方と連携して検討した。なお、質問紙による調査については、5.の評価手法における調査と連携して実施した。
- ・研修修了時に到達すべき能力として、コンピテンシー（能力）の概念を整理するとともに、行動特性を踏まえた具体的な到達目標について、国内外の資料等を参考にしながら検討した。

2. 人口動態や疾病構造、医療提供体制の変化等を踏まえた到達目標の在り方に関する研究（別添1）

- ・受療状況や入院・外来等についての疫学・保健統計等を用いて、入院、外来、在宅等において押さえるべき頻度の高い症候・疾患等について整理を行った。
- ・臨床研修修了者アンケート調査結果を用いて、基本的診療能力と症例経験数について、過去のデータと比較・分析するとともに、プログラム弾力化が研修医の基本的診療能力に与えた影響を検証した。

3. 医師のプロフェッショナルリズムを踏まえた到達目標の在り方に関する研究（別添2）

- ・臨床研修の基本理念に謳われる「医師としての人格の涵養」を具体化させるとの観点から、「プロフェッショナルリズム」を上記のコンピテンシー（能力）の一つととらえ、国内外の取り組みについて情報を収集し、1.診療能力を踏まえた到達目標設定と連携して、到達目標の在り方を検討した。
- ・学会や民間のキャリア支援に関する取り組みについて情報収集を行い、それらを参考に、

医師キャリア形成のあり方と体制の整備について検討を行った。

4. 医師養成全体の動向を踏まえた到達目標の在り方に関する研究

- ・ 卒前教育における医学教育モデル・コア・カリキュラム、国家試験における出題基準、臨床研修における到達目標を比較可能な表を作成し、これらの連続性について検証を行った。

5. 到達目標の評価手法の標準化に関する研究（別添3）

- ・ 評価手法や運用について実態を把握するため、プログラム責任者・臨床研修指導医および研修医等を対象とした Web や質問紙による調査を行い、評価手法の標準化や研修病院、研修医への適用のあり方について検討を行った。